

草地に表面播種された牧草種子及びその幼苗の昆虫類による食害について

岡本 恭二・*手島 道明

(草地試山地支場・*北海道農試)

草地の造成・管理においては表面播種される場合が多いが、その際、所期の定着個体数が得られな事例も少なくない。このような発芽・定着不良の一因として、昆虫類による種子及び幼苗の食害が関与していることが認められたので、この点について若干の調査を行なった。

1. バヒアグラス草地における追播牧草の定着と食害
追播したイタリアンライグラス、エンバク及びレープの定着個体数は、3.5mmの金網ケージで種子を覆った区では良好であったが、放任した区では僅少であった。昆虫類の食害によると考えられる追播牧草の定着不良は、8～9月に追播した場合に著しく、9月下旬以後の追播では認められなかった。

2. 食害昆虫類

バヒアグラス草地に追播したイタリアンライグラス種子を食害する昆虫類は、コオロギ類、トノサマバッタなどであり、幼苗を食害するものは、コオロギ類、トノサマバッタ、シバズなどであることが、明らかとなった

第1表 バヒアグラス草地に追播したイタリアンライグラス種子及びその幼苗の昆虫類による食害

| 処 理 区 | 種子食害率 % | 幼苗食害率 % |
|---------------|---------|---------|
| 放 住 区 | 83.8 | 77.9 |
| エンマコオロギ区* | 100 | 100 |
| トノサマバッタ区* | 43.8 | 87.8 |
| シバズ区* | — | 81.6 |
| クサキリ類区* | 8.4 | 5.3 |
| ヨコバイ類区* | — | 0 |
| 金網(3.5mm)ケージ区 | 0 | 63.5 |
| サラン網(1mm)ケージ区 | — | 0 |

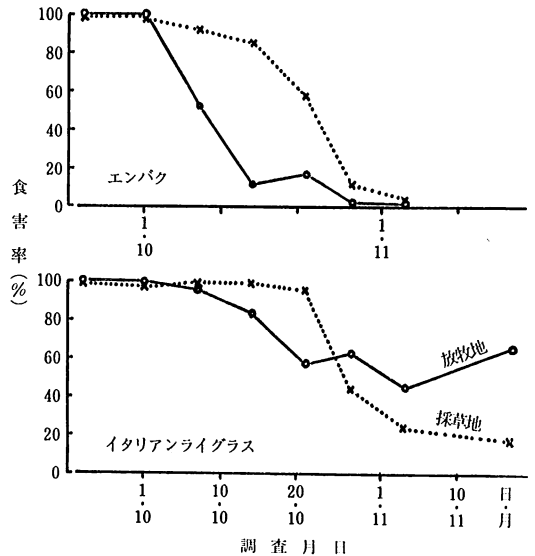
注) * : 各昆虫類3～10匹を種子または幼苗とともにケージ内に入れる。
2) 処理開始後1週目に調査

(第1表)。

3. 食害の時期的推移

バヒアグラス草地におけるコオロギ類生息密度の時期的推移傾向と追播牧草種子食害率のそれとはよく一致した。種子食害率は、放牧草地においては10月上旬以降、採草地においては10月中下旬以降漸減した(第1図)。

このような食害は、九州各地の草地において広く認められる一般的な現象であることを確認した。九州中部高原地帯における追播牧草の食害率は、牧草地では9月下旬以降、野草地では10月中旬以降急激に低下する傾向が認められた。



第1図 バヒアグラス草地における追播牧草種子食害率の時期的推移 (1974)